

『共生と希望の教育学』2刷制作にあたって修正する箇所（計25頁）

誤字・脱字の修正

担当執筆者氏名	ページ	行	修正内容
今岡多恵 (旧姓:橋本)	v	下から9	「橋本多恵」⇒「今岡多恵」
	71	下から8	「橋本多恵」⇒「今岡多恵」
庄司一子	75	表6-1	「出典:アーガイル前掲書」⇒「出典:アーガイル／ヘンダーソン前掲
	75	注1	「マイケル・アーガイルほか『人間関係のルールとスキル』吉森護 訳, 北大路書房, 1992年.」⇒「マイケル・アーガイル／モニカ・ヘン ダーソン『人間関係のルールとスキル』吉森護編訳, 北大路書房,
	76	注3	「アーガイル前掲書」⇒「アーガイル／ヘンダーソン前掲書」
	77	13	「③」⇒「④」、「④」⇒「⑤」、「⑤」⇒「⑥」
	78	12	「2チャンネル」⇒「2ちゃんねる」
	79	本文 下から2	「対面を保ち」⇒「体面を保ち」
	81	下から9	「差違」⇒「差異」
	84	2	「配慮される体験」⇒「配慮される経験」
	84	5	「ケアされる体験」⇒「ケアされる経験」
	84	7	「ケアされる体験」⇒「ケアされる経験」
	84	12	「体験」⇒「経験」
	84	18	「差違」⇒「差異」
今岡多恵 (旧姓:橋本)	99	題目	「橋本多恵」⇒「今岡多恵」
羽田野真帆	111	注3	「篠原陸治」⇒「篠原睦治」
	115	12	「相対化してくために」⇒「相対化していくために」
	115	下から9	「相対化してくために」⇒「相対化していくために」
	118	本文 下から7	「変容を促すことが可能性である」⇒「変容を促すことが可能である」
唐木清志	175	注5	「北村利子」⇒「北村年子」
	181	参考文献の 3行目	「北村利子」⇒「北村年子」
熊本博之	249	13	「pp.36-39」⇒「pp. 36-39」(pp.のあとに半角あける)
杉田かおり	289	注8	「Community Cohesion」⇒「Community Cohesion Event」
	289	注8	「Speech at South…」⇒「Speech at the South…」
	293	3	「どのよう」に傍点 ⇒「どのよう」に傍点
藤井大亮	322	15	「独自の調査も加えて」⇒「独自の調査を加えて」

「執筆者紹介」の修正

氏名	ページ	行	修正内容
嶺井明子・平田 諭治・庄司一子・ 水本徳明・唐木 清志・浜田博文・ 井田仁康・飯田 浩之・佐藤眞理	354～ 357		【筑波大学教員全員の所属組織名の変更】「筑波大学大学院人間 総合科学研究科」⇒「筑波大学人間系」
橋本憲幸	354	19	「筑波大学大学院人間総合科学研究科一貫制博士課程教育学専 攻」⇒「筑波大学人間系博士特別研究員」
今岡多恵 (旧姓:橋本)	355	1	「橋本多恵(はしもと たえ)」⇒「今岡多恵(いまおか たえ)(初版発 行時は橋本多恵名義)」
	355	2	「筑波大学大学院人間総合科学研究科3年制博士課程ヒューマン・ ケア科学専攻」⇒「常葉学園大学教育学部助教」
羽田野真帆	355	7～8	「筑波大学大学院人間総合科学研究科3年制博士課程ヒューマン・ ケア科学専攻、日本学術振興会特別研究員」⇒「浜松大学健康プ ロデュース学部助教」
丹治恭子	355	15	「浜松大学健康プロデュース学部講師」⇒「立正大学仏教学部講

大林正史	355	下から9~8	【主要著作を次の2点に差し替え】「分権改革が学校経営に与えるインパクトに関する事例研究——学校運営協議会の導入を中心に」(『学校経営研究』第37巻, 2012年), 「学校運営協議会の導入による学校教育の改善過程——地域運営学校の小学校を事例として」(『日本教育行政学会年報』第37巻, 2011年)
熊本博之	356	下から4	「明星大学人文学部助教」⇒「明星大学人文学部准教授」
笹野悦子	357	2	「早稲田大学・武蔵大学・大妻女子大学・実践女子大学 非常勤講師」⇒「早稲田大学・武蔵大学・都留文科大学など非常勤講師」
杉田かおり	357	14	「筑波大学大学院人間総合科学研究科」⇒「筑波大学人間系」
藤井大亮	357	下から5~4	「筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻、日本学術振興会特別研究員」⇒「筑波大学人間系特任助教」
最終頁	357	最下行	「所属・職位は2011年7月時点」⇒「所属・職位は2013年1月時点」
岡本智周・田中 統治	奥付		【筑波大学教員全員の所属組織名の変更】「筑波大学大学院人間総合科学研究科」⇒「筑波大学人間系」